

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		山県市ピッコロ療育センター				公表日	令和7年 4月 1日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	0	・適切である。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	0	・令和6年4月に職員を1名採用し、指導員が増えたことで適切になった。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	0	・必要な物だけを用意したり、活動によって他の物が目に付きにくいよう環境を整えたりしている。 ・写真を使う等、視覚的にも示しながら声かけすることも必要に応じて行っている。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	0	・毎日掃除や消毒を行い、指導中も窓を開放して換気したりや空気清浄機を活用したりしている。 ・個々の興味関心に合わせて活動を設定し、存分に楽しめるよう部屋の物の配置等もその都度変更している。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	0	・毎回個別の部屋が割り当てられている。 ・指導室以外にも、ミーティングルームなど誰でもいつでも使える部屋が用意されている。			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	0	・毎朝職員会を行い、意見を出し合っている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・保護者向け評価表や保護者との話し合い、語る会などで頂いた意見を職員間で共有し、改善の必要性や方法を検討している。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	・事業所における自己評価を行ったり、日々の職員会で意見を出し合ったりしている。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	0	・第三者委員の方に年数回来所して頂き、業務改善必要な意見を頂けるようにしている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	0	・研修の案内が来た時は職員間で共有し、必要に応じて参加している。	・今後も研修に参加できるよう日程調整をしたり、研修報告等の時間を確保したりする。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	・ホームページ上に公表している。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	0	・児童発達支援管理責任者と担当指導員が子どもと保護者のニーズや課題を把握した上で、支援計画を作成している。			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	0	・児童発達支援管理責任者と担当指導員が話し合いながら計画を作成している。			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	0	・行っている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	・子どもの様子が分析しやすいように毎回記録したり、医療機関の検査結果を踏まえて支援を検討したりしている。			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0	・設定している。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	・小集団活動は、その都度職員間で検討し、事前に打ち合わせをしてから行っている。			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	・子どもの実態に応じて内容を考え、色々なあそびを楽しく経験できるように工夫しながら活動を計画している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5	0	・物を共有したり、ルールを守ってあそんだりするなかで、他児と関わり合いながら活動する機会を作っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	・行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	・自分が担当している、していないに関わらず、指導中に気になる様子が見られた場合は報告し合い、見立てや支援の仕方などを職員間で共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	・指導後に必ず記録を取り、次回の計画や声かけ、支援方法に生かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	・半年に1回は必ずモニタリングを行い、必要に応じて見直しをしている。 ・状況に応じて回数を増やすこともある。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	・相談支援専門員や学校、サポートセンターなどと連携しながら支援を行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	0	・市教育委員会や子育て支援課とは常に情報共有しており、また山県医師会の医師にも施設の感染症対策委員会委員や協力医療機関になっていただいている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園等)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	・指導員が担当児の園訪問を行い、情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	0	・年長児親子を対象に小学校見学を行ったり、保護者と相談の上就学前に小学校の先生に指導を見に来ていただいたりしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	5	0	・山県市に児童発達支援センターがなく、当事業所がその役割を担えるよう努力している。また、県立希望ヶ丘と連携を図り、助言を受けられるようにしている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	4		・地域の幼稚園や保育園等に通っている子が多いため、現状施設としてそのような機会は設定していない。今後保護者のニーズを確認し、必要に応じて機会の設定も検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	0	・指導中にその都度様子を伝えたり、指導後に懇談の時間を設けたり、ノートでやりとりしたりしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	1	・療育講座や親さんと語る会など、保護者を対象とした行事も行っている。 ・基本親子指導のため、日々の指導のなかで子どもの理解や関わり方などを支援している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	0	・通所開始前の相談時、契約手続き時、指導開始時等に、分かりやすく説明するようにしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	・通所開始前の相談時に意向を確認した上で作成し、支援している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5	0	・実際に書面で示しながら説明し、同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	・親子指導のため、面談の時間を設けることはしていないが、指導中の会話を大切に、いつでも相談できる雰囲気作りを意識している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	1	・指導と一緒にいる方だけでなく、他の方とも交流が持てるように、行事の時に親子の座り位置を学年別にした、保護者のみが参加する行事を設定したりしている。	・父母の会や保護者会は現在無く、きょうだい同士で交流する機会も行っていないため、保護者のニーズを確認し、必要があれば今後検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	・家族からの相談に対して、担当指導員だけでなく、所長や児童発達管理責任者、他の職員も含めて対応できる体制を取っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	2	・通信や掲示物、ノート等でお知らせしている。	・来年度からコドモンを利用する。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	0	・個人情報の取り扱いに関する研修を毎年受けており、十分留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5	0	・配慮している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	1	・第三者委員やライオンズクラブの方々を行事に招待している。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	0	・各マニュアルをミーティングルームに掲示し、周知している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	0	・策定した業務継続計画を基に、定期的に避難訓練や消火訓練等を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	0	・保護者への聞き取りや、相談票と家庭調査表への記入により把握している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	0	5	・通所開始前の相談時に、アレルギーの有無や種類、程度を確認している。 ・基本的に食事の提供はしていないが、行事の際に菓子や飲み物を配ることがあるため、食物アレルギーのある子が通所している場合は、食品に含まれる食材をしっかりと確認した上で、保護者にも確認をお願いしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	・玄関のドアを施錠するなど、安全に過ごせる環境で支援している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	・周知している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	・職員会で確認している。	・今後もヒヤリハットが起こらないよう気を付ける。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	0	・研修に参加している。 ・毎月チェックリストをつけている。	・今後も情報共有を欠かさず、職員全員が常に意識できるようにする。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	2	・現在は身体拘束を必要とする利用者はいないが、いつ利用されても良いよう準備はできている。	